なりきりカメラマン ～わくわく おどろき ピンホール写真教室～

～社団法人 日本写真協会

「写真」はデジタルカメラで撮るもの、と子供たちは思っているかもしれません。デジタルカメラが一般家庭に普及したのは1990年代半ばですから、ネガフィルムや白黒写真を見たことがない子供たちも、多いのではないでしょうか。

社団法人日本写真協会（以下、「日本写真協会」という。）は、写真を通じて国際親善の推進と、文化の発展に寄与することを目的として設立された団体です。子供たちにも写真に親しんでもらうため、学校や様々なイベントでの出前「写真教室」を行っています。今回は、大田区立梅田小学校（吉田孔一校長）で開催された「なりきりカメラマン～わくわく　おどろき　ピンホール写真教室～」の様子を紹介します。

今回の写真教室で使うカメラは、ピンホールカメラです。4年生の児童は、事前に日本写真協会のキットを組み立てて、ピンホールカメラをつくりました。紙の箱に、小さい穴のあいた金属板をつけて、シャッター代わりの黒いテープで穴をふさいだものです。今日は、理科室を暗室として、黒いカーテンで出入口を作り、中には現像するセットが用意されています。保護者の方も、現像や乾燥のコーナーの手伝いに来てくれました。

最初に今回の授業についての説明を聞き、班ごとに日本写真協会の指導者がついて、校庭や渡り廊下で写真を撮ります。最初の回では、曇っていたのでカメラのシャッターを4分間も開けていなければなりませんでした。暗室に戻って、ネガを現像します。もう一度写真を撮り、2枚のネガをつくりました。そして、プリント作業です。印画紙を受け取り、懐中電灯で照射して、現像のコーナーに持って行きます。現像液の中から画像が浮き出ると、児童たちの歓声があがりました。

自分で作ったカメラで撮った、友だちと並んでいる写真、花壇、渡り廊下からの風景。2枚のプリントを見比べながら、展覧会に出す写真を選びます。どちらがよいか選べずに日本写真協会の指導者に選んでもらう児童もいます。感想文には、「紙のカメラで写真なんかとれないと思っていたけれど、ちゃんととれたので驚きました。」「4分間、動かないでいるのが難しかった。」など、楽しい感想が一杯に書かれていました。

この授業のここがポイント！

○自分の手でピンホールカメラを組み立ててつくることと、現像という通常は体験できない作業を通して、ものづくりと表現の楽しさを感じることができます。

○日本写真協会の方から、少人数で直接指導してもらうことができます。

○協会が作成した「写真って楽しいよ」を教材として、写真についての理解を深めることができます。

日本写真協会の写真・映像教育推進委員会 副代表　杉木 彬さんにお話を伺いました

写真は今から約170年前に発明され一瞬の光を写し撮り、人々に驚きとときめきを与え、社会と密着した写真文化へと発展してきました。今ではデジタルの普及により、かつてないほど写真が自由になってきました。

そこで、このプログラムでは子供たちが「写真の楽しさ・面白さ」に出会い、心から喜び、感動できる「写真教室」を目指し、写真がどうやってできるのか「モノクロ写真ができるまでのプロセスが体験できる写真教室」の普及により子供達の豊かな感性、人間性、社会性を育てることを目的としています。

小学生を中心に幼稚園児から高校生、親子や初めての方を対象に、学校への出前授業はもとより、地域の児童館や公民館などで、土・日や春休み・夏休みの子供体験教室としても実施しています。体験時間は2時間～3時間を必要としますが、講座を2回に分けたり、参加人数や費用など主催者の条件に合わせるよう努めています。

今までに培ったノウハウを活かし、3年間で首都圏を中心に名古屋なども含めて約40回、2,000人が参加しました。今後は全国展開を進めます。詳細などいつでも当協会へお問い合わせ下さい。

【連絡先】社団法人 日本写真協会　　千代田区一番町25　JCIIビル　電話03（5276）3585　http://www.psj.or.jp/